

科名 13 期ミュージアムへ行こう 4

テーマ名 橿原考古学研究所附属博物館へ行こう
事前学習 橿原考古学研究所・附属博物館のあゆみ、その見どころ
実施日付 2025 年 8 月 26 日（火）
講 師 奈良県立橿原考古学研究所 岡見友紀

専門分野が「墨（文字の始まりを探る）、古墳時代」の岡見研究員から橿原考古学研究所附属博物館のあゆみと見どころの講義を受けました。
詳細は下記の内容でしたが、岡見氏の経験を交えた講義はわかり易く興味が湧く内容でした。（早く観たいと思うような話でした）

1， 橿原考古学研究所・附属博物館のあゆみ

1. 橿原考古学研究所・附属博物館のあゆみ

橿原考古学研究所の沿革

- 1938（昭和13）年 9月13日
・皇紀2600年祝典事業の一環として橿原神宮外苑整備事業が開始
・橿原遺跡の発掘調査事務所を設置
・「橿原考古学研究所」と命名、創立日を9月13日とする
- 1939～1945年（昭和14～20）年
・市留遺跡・大和古墳群（3～6号墳）などを調査
・戦中は軍事施設予定地の発掘も実施
- 1951（昭和26）年
・文化財保護法のもと、奈良県教育委員会組織に
・米永豊雄所長以下、非常勤職員で構成
- 1970（昭和45）年
・奈良県教育委員会に遺跡調査室を設置（初の常勤職員）
- 1974（昭和49）年
・県条例により正式な県立機関に位置付け
・附属博物館を設置
- 1980（昭和55）年
・博物館新館開館に伴い附属博物館と名称統一
- 1992（平成4）年
・研究所新棟が完成（旧博物館敷地）

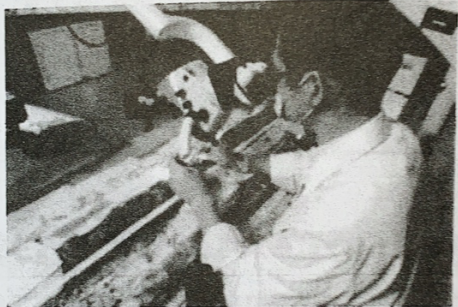
組織

【企画学芸部】
企画課：普及事業や国際交流など
学芸課：博物館の展示、資料管理など
資料課：遺物や図面、写真などの管理
保存科学センター：遺物の分析や保存

【調査部】
調査課：遺跡の発掘調査
総務課：庶務全般、庁舎管理



③ 保存修復
2025年4月1日保存科学センターを設置
→県内外の文化財の保存修復を実施
→文化財の科学分析を実施

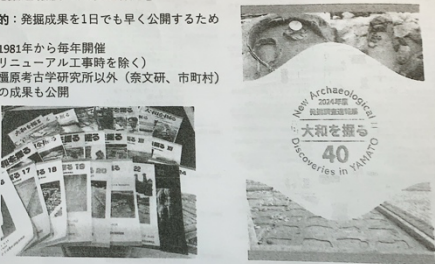


2， 発掘速報展「大和を掘る」

2. 発掘速報展「大和を掘る」

目的：発掘成果を1日でも早く公開するため

- ・1981年から毎年開催（リニューアル工事時を除く）
- ・橿原考古学研究所以外（宗文研、市町村）の成果も公開



- 3， 縄文時代の発掘
- 4， 弥生時代の遺跡
- 5， 古墳時代の遺跡
- 6， 飛鳥時代の遺跡

テーマ名 橿原考古学研究所附属博物館鑑賞会

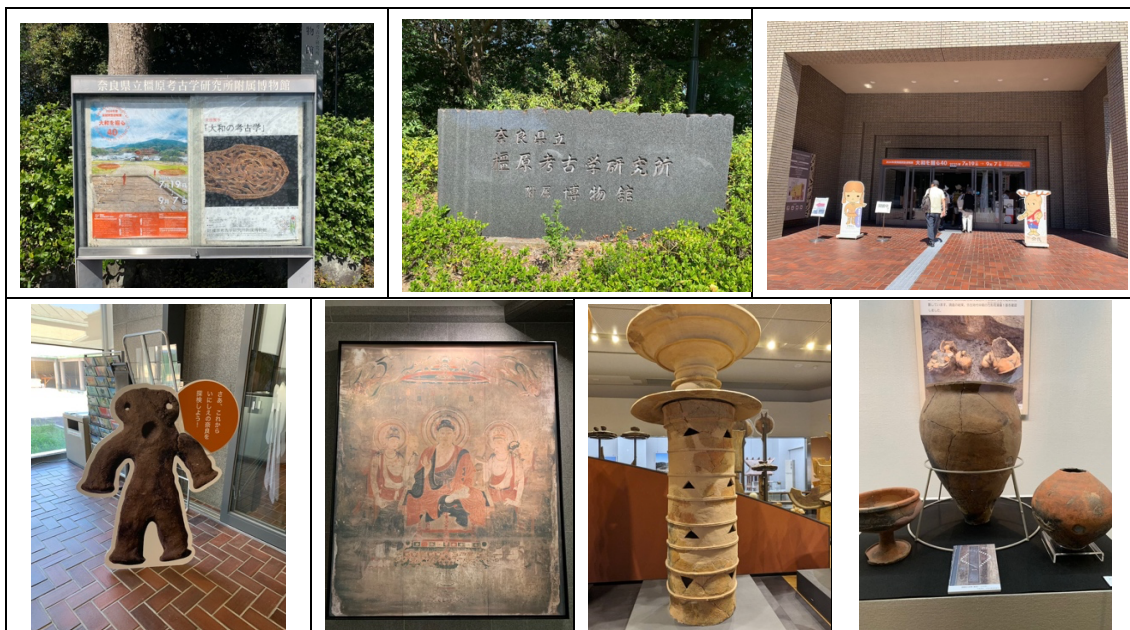
実施日時 2025 年 9 月 2 日 AM 橿原考古学研究所附属博物館

PM 食事会 橿原オークホテル

1、橿原考古学研究所附属博物館 鑑賞会

		
近鉄「畝部御陵前駅」で集合しました	畝部御陵前駅です	駅前に博物館への看板がありました
		
駅には古墳発掘のリリーフが	博物館のキャラクター、イワミンが	

駅から 10 分ぐらい歩くともう博物館に到着しました。



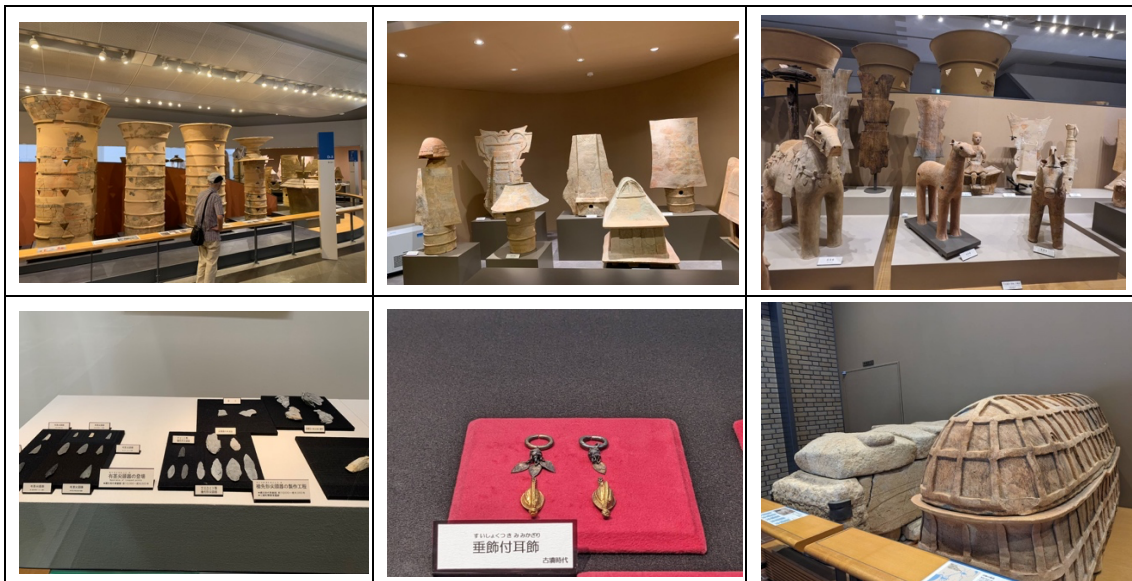
博物館に入ると、「大型円筒埴輪」など立派な展示物が置かれているのに驚かされます。

まず、特別展示室で開催されている「大和を掘る40」から見学しました。



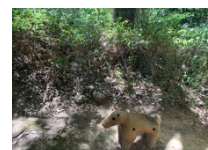
埋葬された土墳墓から発掘された人骨がそのままの姿で展示されているのには驚きました。岡見講師が熱心に話されていた遺跡を間近で見ました。

常設展「大和の考古学一目で見る日本の歴史」の展示は量も多く見応えがありました。展示物は写真も自由に撮れて皆さんもたくさん撮られていました。一部に写真禁止の展示物もありましたが、皆さんお気づきになられていましたか？。



中庭に出ると、敷き詰められた石板が古代へと誘ってくれます。このスペースでは食事も可能です。
木の下に埴輪が置かれていて心が和みました。

屋外にも移築石室、石槨などが展示されていました。





ランチ会

博物館から少し歩いた榎原オークホテルで幕内御膳をいただきました。



食後は、榎原神宮へ参拝する人と帰宅する人に分かれて散会しました。

